

『北京文物精粹大系・石刻卷』細目

森田 憲司

はじめに

北京にかかわる、あるいは北京市に在る文物の総合図録全集とも言うべき『北京文物精粹大系』（編委会・北京市文物局編 北京出版社、以下《精粹》と略）は、古籍善本、書法、玉器、家具など、すでに10巻以上が刊行されているが、「石刻」の巻が2004年に刊行された。同書は、北京市に存在する古代から近代までの石刻を図版をともなって紹介しており、石刻の拓影とともに、多くの鮮明な写真が掲載されていて、一般の石刻図録などの出版物が拓影のみのものや、写真が掲載されていてもお添え物程度である場合が多いのと異なり、特徴となっている。ここでは、同書所載の元朝石刻について細目一覧を作成し、かつて「北京地区における元朝石刻の現況と文献」（科学研究費基盤研究B「碑刻等史料の総合的分析によるモンゴル帝国・元朝の政治・経済システムの基礎的研究」[研究代表者 松田孝一] 報告書、2002、以下「森田目録」と略）でおこなった各石刻への注記を補訂して付すこととした。

凡例

- 1 以下の排列は石刻の年代順とし、次の各項からなっている。
 - 《精粹》図版番号
 - 石刻名（森田目録による、本書のタイトルとは一致しないものもある）
 - 森田目録での石刻番号（[] で囲んでおいた、アルファベットが附されたものは追加石刻の仮番号）
 - 図版の種類（写真、拓影など）
 - 石刻の所在その他についてのコメント
 - 《精粹》の注記の引用（現況などに限り、全文は引いていない）
 - 関連文献（主として森田目録によるが、追加あり）
- 2 引用文献の略号は次のとおり
 - 《池内》池内功「北京図書館蔵元代石刻拓本目録一『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編』未収録分」
 - 《院務彙報》 国立北平研究院院務彙報
 - 《市志》 北京市志稿金石志
 - 《道家》 道家金石略 数字は金元の部の石刻番号.
 - 《文物研究所》北京市文物研究所蔵墓誌拓片 数字は同書の番号
 - 《北拓》北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編 数字は巻一頁
 - 《北平》 北平金石目
 - 《北目》 北京図書館蔵北京石刻拓片目録

『北京文物精粹大系・石刻卷』細目

9, 10 石景山摩崖石刻 (写真)

至元3年(1266、図版9), 4年(1267、図版10)(前至元と判断した根拠不明)
石景山区石景山半山腰处, 共有五处元朝石匠摩崖石刻.

※11-16の摩崖についても元のものとするが、明確な根拠はなし.

126 大都昌平区東郷新城村双泉院地産記碑陰四至図 [012]

拓影

至元19年(1282). 昌平区上苑郷西新城.

《北目》, 《池内》335

※『昌平区地名志』(西新城)に「双泉寺に残碑一座」とあるのがこれか.

133, 134 大蒙古国燕京大慶寿寺西堂海雲大禪師碑記 [005]

写真: 133 碑首写真, 134 全景写真

乙卯(憲宗5/1255, 《精粹》は延祐2年立とする)

西城区西長安街双塔寺, 現在法源寺.

《北目》, 《北平》, 《院務彙報》3-6, 7-1, 《市志》卷2, 《池内》330

「北京雙塔寺海雲碑」陳垣『人民日報』1961年4月23日

※その後、『芸林叢録』第2(香港商務印書館, 1962), 『陳垣先生近廿年史学論文集』(存萃学社, 1971), 『陳垣學術論文集』(中華書局, 1982), 『陳援庵先生全集』(新文豐出版公司, 1993)などに再録. 『陳垣先生近廿年史学論文集』には、葉恭綽の録文[『遐菴談芸録』所載]も収録されている.

「燕京双塔慶寿寺与海雲和尚」蘇天鈞『北京文物与考古』1 1983 録文

「『大朝崇褒祖廟之記』再考」森田憲司『奈良史学』12 1994

その他の写真: 『元大都』, 『図説北京史』

242 海雲葬誌 [006]

拓影

1955年西長安街双塔寺海雲塔基下発見, 現在白塔寺.

その他の拓影: 《文物研究所》71

「燕京双塔慶寿寺与海雲和尚」蘇天鈞『北京文物与考古』1983 録文

「大慶寿寺及其出土遺物」張寧・劉樹林『首都博物館国慶四十周年文集』1989

243 仏日円明海雲大宗師塔銘 [007]

写真

1955年西長安街双塔寺海雲塔基下発見, 現在白塔寺.

「大慶寿寺及其出土遺物」張寧・劉樹林『首都博物館国慶四十周年文集』1989

録文

その他の写真: 『元大都』, 『図説北京史』

244 大元故光祿大夫監修国史中書左丞相耶律公墓誌銘 [014]

246, 247 故郡主夫人奇渥温氏墓誌銘 [015]

拓影、ほかに 245 に発掘現場写真

至元 22 年 (1285). 1998 年海淀区頤和園新建地下文物庫出土.

その他の拓影 : 《文物研究所》72, 73

「耶律鑄夫妻墓誌銘」録文と訓読 徳永洋介『13, 14 世紀東アジア史料通信』1
2004

「耶律鑄夫婦合葬墓簡況」『北京文博』1998-4

「耶律鑄夫妻合葬墓出土珍貴文物」『中国文物報』1999 年 1 月 31 日

「五十年北京地区発現的重要文字石刻」呉文・傅幸『北京文博』2000-1

「《元中書左丞相耶律夫婦合葬墓出土文物展》巡礼」王丹・王策『北京文博』2000-4

「頤和園耶律楚材祠六一重新開門迎客」『北京日報』2003 年 5 月 30 日

127 重修通仙觀碑銘序 [019]

拓影

至元 28 年 (1291). 門頭溝区清水郷燕家台.

《精粹》: 通仙觀現在門頭溝区燕家台邨東部溝谷間台地上, 今已毀没, 碑亦遷至
村口, 砌于過街楼上.

『北京名勝古蹟辞典』(通仙觀碑)

『門頭溝区地名志』(燕家台)

『京畿叢書・門頭溝』

128, 129 皇恩特賜聖旨訳本碑 [027]

写真 : 128 八思巴文碑額写真, 129 碑身局部写真

大徳 3 年 (1299). 平谷県王辛庄郷太后村肖家院興隆寺. 現存平谷県文物保管所.

《精粹》: 有二碑前後立, 坐西朝東, 前為漢文“大興隆禪寺創建経蔵記碑”, 後
即此碑螭首座佚, 下部半埋土中, 陽額“皇恩特旨聖旨訳本”. 碑面無字. 碑陰
連額刻八思巴文. 今在平谷区王庄郷太后村原蕭家院遺跡上.

『平谷県志』(碑刻・皇恩特賜聖旨訳本碑) 写真・録文 (両面)

『北京名勝古蹟辞典』(隆禪寺碑刻)

『平谷県地名志』(肖家院) 写真

130 □□ [昌平] 県狄梁公祠堂記 [028]

写真 (全体)

大徳 4 年 (1300). 昌平区昌平鎮旧県村北.

《精粹》: 碑原在昌平区昌平鎮旧県村狄梁公祠遺址内.

碑陰に題名あり.

《北目》, 《北拓》48-158

拓影 : 『昌平県地名志』

131, 132 加封孔子詔碑 [034]

131 碑額写真, 132 碑身写真

大徳 11 年 (1307). 東城区国子監街孔子廟 (首都博物館).

碑陰: 後至元二年国子監等官題名 (国子監碑目に「難辨題名」とあり).

《北目》, 《北平》, 「国子監碑目」, 《院務彙報》3-2, 《市志》卷 1

「大徳十一年『加封孔子制誥』をめぐる諸問題」宮紀子『中国-社会と文化』14
1999

その他の写真: 『図説北京史』

135-137 大元銀青緑榮禄大夫功臣太保上柱国薊国公諡忠愍石抹公神道碑銘 (蕭
栻住) [055a]

写真・拓影: 135 残石写真, 137 龜趺写真, 136 碑首残石拓影

碑文不存. 螭首と龜趺のみ.

泰定元年 (1324). 懷柔県北房鎮宰相庄村.

138-40 大元勅賜開府儀同三司上卿輔成贊化保運玄教大宗師志道弘教冲玄仁靖大
真人知集賢院事領諸路道教事張公碑銘并序 [張留孫] [066]

写真: 138 東嶽廟碑林風景, 139 全景, 140 碑額

天曆 2 年 (1329). 朝陽区東嶽廟

《北目》, 《北拓》49-122, 《院務彙報》2-5, 7-6, 《市志》卷 2
《道家》472 (芸拓) 録文

141, 142 重修廟学之記 [083]

写真: 141 全景, 142 碑額

至正 8 年 (1348). 順義県城関二中

《精粹》: 此碑 20 世紀 90 年代出土于順義県城西北関原孔廟遺址内 (至正 9 年立
とする).

『順義県地名志』(孔廟元碑)

143 福寿興元觀聖旨碑 [115]

写真 (全体)

年次不明 (《精粹》は至正 14 年立とする)

西城区樺皮廠東城牆出土, 現在法源寺.

「元大都的勘差查和発掘」中国科学院考古学研究所元大都考古隊他 『考古』
1972-1 写真

「記元大都出土文物」張寧『考古』1972-6

144, 145 房山県大安山龍海觀創建黒龍潭廟記 [093]

写真: 144 全景, 145 局部

至正 14 年 (1354). 房山区大安山郷.

碑陰 題名

《北目》,《北拓》50-96
※(民国)房山県志卷7に録文

146 勅賜十字寺碑記 [103]

写真(碑額)

至正25年(1365) 房山区猫耳峰三盆山下

《精粹》:今在房山区周口店鎮車廠村十字寺遺址内

《北目》,《池内》376

「房山十里寺中也可温石函跋」『芸林月刊』26 1932 ※未見

「佐伯先生の景教十字架発見」法本義弘『大東文化』5 1933 (『佐伯義郎遺稿並伝』[1970]所収)

『元大都也可温十字寺考』徐萃芳『中国考古学研究』(文物出版社 1986)

『北京名勝古蹟辞典』(十字寺)

『門頭溝区地名志』(淤白村)

その他の写真:『図説北京史』

248, 249 昭勇大將軍萬戸張公墓誌銘 [張弘綱] [032]

拓影:248墓誌,249志蓋

大徳9年(1305).1972年5月朝陽区永定門外小紅門発見.

「元鉄哥父子墓和張弘綱墓」北京市文物研究所『考古学報』1986-1 拓影

「十年来北京考古的新成果」靳楓毅・魯琪齊心『文物工作十年(1979-1989)』

「元代張弘綱墓志及其事蹟考索」黄秀純『北京文物与考古』3 1992

その他の拓影:『図説北京史』,《文物研究所》74

250, 251 大元故太傅録軍国重事宣徽使領大司農司太医院事鉄可公墓誌銘 [鉄哥] [041]

拓影:250表面、251裏面

皇慶癸丑(2/1313)卒.1962年12月崇文区龍潭湖呂家窯村(現夕照寺街)発見.

「元鉄哥父子墓和張弘綱墓」北京市文物研究所『考古学報』1986-1 拓影

「北京出土的元鉄可墓誌銘」黄秀純・喻震『首都博物館叢刊』5 1990

『北京考古四十年』1990. 拓影

「十年来北京考古的新成果」靳楓毅・魯琪齊心『文物工作十年(1979-1989)』

「元《鉄哥墓誌》考釈」侯堯『北京文物与考古』2 1991 録文

「北京地区發現的元代墓葬」黄秀晚・雷少雨『北京文物与考古』2 1991 拓影

拓影:『図説北京史』,《文物研究所》75

附311-13 居庸関雲台刻経(写真)

311雲台全景,312,313刻経

(もりた けんじ 奈良大学)